**日本の平和をどう考え、どう伝えるか**

―「新しい戦前」か「永遠の戦後」か

　　　　　　　　　　　2023年1月29日　市民連合ふくおか学習会（中央市民センター）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　福岡大学名誉教授　星乃治彦

**はじめに**

すでに戦前状況？（もしかしたら、戦争中なのかも）

・「敵」（中国、ロシア、北朝鮮・・・）の想定

・情報の攪乱　切り取られた情報

・暴力による解決の正当化

・言論弾圧の始まり（学術会議問題）

**（「敵地攻撃」の歴史的事例）**

笹原十九司氏（『赤旗』2023.1.20）

・1937年7月日中戦争　1937年7月　南京渡洋爆撃

・1941年12月真珠湾攻撃　ABCD包囲網打破のため「自存自衛」⇔　先制攻撃

・2003年　イラク戦争＝　「イラク・フセイン政府が大量破壊兵器を保持している」を口実に、アメリカ軍を中心とした有志連合は、3月20日開戦、フセイン政権打倒　←　日本の小泉純一郎首相は記者会見で、「アメリカの武力行使を理解し、支持いたします」＝7100億円の債権放棄　⇔　大量破壊兵器は発見されない。その後の混乱　➡　80万人の民間人犠牲者　➡　2010年オバマ大統領による戦闘終結宣言（「間違った戦争」）

**（情報の攪乱、混乱、誘導）**

・中国、北朝鮮が攻めてくる　→　不安をあおる　→　敵が攻めてきたらどうする　→　反撃能力・敵地攻撃の正当化　→　「やった」「やられた」ゲーム感覚

**（何が問題なのか）**

* **北朝鮮のミサイル問題**

　なぜ、ミサイルを今回10月を中心に発射したのか？

（前提）　現在朝鮮戦争は「休戦中」＝戦争は終わっていない、継続中。

　　2022年9月から11月にかけて日米韓軍事合同演習、米韓軍事演習（防衛省のHP）➡

挑発行為に対する北朝鮮の威嚇措置➡ミサイル発射

（対処策）＝（根源を絶つ）挑発行為をしない。朝鮮戦争を終結させる　➡　平和条約

* **台湾有事**

（前提）中国との国交回復の条件　　内政問題

　　　台湾世論　台湾人意識1992年17.6％　➡ 2020年　67.0%

 １国2制度（香港方式）9割は拒否、中国侵攻に対しては7割が戦う

⇔　6－7割「現状維持」➡統一地方選挙で「現状維持」派＝国民党の圧勝(22.11)

→　緊張感を高め、戦争に向かう政策に反対　→　台湾有事の可能性小さい＝軍事侵攻しなくても解決する問題

（日本との関係）有事に備えるんではなくって、日本は巻き込まれない努力をすべき

★**アメリカの世界戦略**（グローバル化から「陣営」化へ！）

　　　　・米中経済対立（協力　➡　危機感　➡　経済制裁　➡　軍事的対立）

　　　　・ヨーロッパにおける集団的安全保障体制構築の失敗＝ウクライナ戦争

アメリカの脅威となる中国・ロシアを敵とする＝冷戦と似た構造

　　　　　（象徴＝西のウクライナ、東の台湾、北朝鮮）

・陣営化　　「民主主義陣営」対「権威主義陣営」

この構造の中での安保三文書＝日本のNATO化＝・専守防衛から敵基地攻撃へ・２％

　　　対米従属＝新たな戦前の構造の前提

* **アメリカの読み違い**

・中国の抑制的態度

　・第3世界のリアリズム

**（どう対峙していくのか？戦争という熱病への処方箋）**

★**アメリカ中心の情報に振り回されない。**

　　　　　・第3世界、国連の情報　➡　自分の頭で考える＝アセアンの知恵

★**そもそも暴力で問題を解決しようとしない＝9条の精神**

・戦争＝死、戦争は嫌、愚か＝「生きること」が大事

➡　戦争という問題解決は取らない　➡「戦争に戦争を」！

「自分が死なない」「殺さない」←　語り継ぎの蓄積

★**攻めてこない状況をつくる。「敵」を作らない**　＝人材　平和・友好運動の蓄積

・お金の使い方＝軍事ではなく、教育、人材育成にお金をかける！（1人当たりGNP比で、世界150位程度）➡　それを盾として平和を守る！

・武器・憎しみではなく、友好の輪で平和を作っていく。ヘイトを許さない。

　　　　　←　市民的草の根友好運動の蓄積

　　　　➡・9条は宝　・この間の蓄積は何なのか確認する

★**それでも攻められたら**　　➡　長期的視点・解放の日を待つ

抵抗の様々なパターン

・市民的抵抗＝武器を使わない、ゼネスト、街頭、世論喚起

　　　　　　　　　　　　　　　タイ、ミャンマー、パレスティナ、アフガニスタン・・・

　　　　　　　　　　　　　　　　　　長くかかるが、犠牲者は最低限

**おわりに**　　「新たな戦前」か「永遠の戦後」か？



